

北海道PTA連合会

179号



# 会 報

札幌市中央区北3条西2丁目共栄火災ビル7F/電話(011)251-6937 FAX(011)210-0929 <http://www.hokkaido-pta.jp>

## 後志・余市大会を終えて

北海道PTA連合会

副会長 関 井 之 生

第57回日本PTA北海道ブロック研究大会後志・余市大会が、大会スローガン「子どもたちのたくましく生きる力と夢を育むPTA活動」、大会主題を「家族の絆」として、9月18日・19日の両日にわたり、余市町内の7会場において開催いたしました。

参加者の皆様に気持ちよく後志・余市研究大会に参加していただくために、実行委員はおもてなしの心と歓迎の気持ちを持ち、アットホームな雰囲気で開催できるよう、2年間かけて準備して参りました。今回の大会には私の予想を遥かに超える1200名以上のたくさんのPTA会員の皆様に集まっていただき、また、ニッカ会館で行われた交流会にも260名以上の皆様に参加していただき、本当にうれしく感激しました。お礼の言葉をいくつ並べても足りないほどです。

また、実行委員や関係者の皆様には準備段階から私が無理を言ってきたにもかかわらず、全て受け入れて実行していただいたこと、本当に感謝いたします。おかげさまで分科会、交流会、全体会と無事終了することができました。大会の成功を皆様方と共有することができ、一生に残る大切な思い出となりました。この大会では余市町P連が中心となり準備を進めて参りましたが、ますます結束力が強まりましたこともうれしいことの一つでしたし、それが大会を開催する意義の一つであったと思います。

さて、今大会の主題の「家族の絆」ですが、私は今44歳ですが、「絆」というのは当初、友人や師弟のような関係にのみ該当する言葉であり、家族には元々備わっているものと捉えていました。しかし、昨年より道P連の役員会に参加させていただき、現在の子どもたちを取り巻く環境等についてお話を聞かせていただく機会が多々あります。私の世代は親の背中を見て育ち、特に親とはこれといった会話もせずに育てられたと思いますが、昨今のような残酷な問題はなかったように思います。「まわりの環境が違うから……」と一言では片付けられないように思えます。親の背中を見せる場面も少なくなっているのでしょうか。そうであるならば「家族の会話」が大切になってきます。例えば、PTA事業の中に三行詩コンクールがありますが、親子で話し合いながら創作しましょうという、会話を提供する企画です。このようなことから始めるのもよいのではないのでしょうか。また、大会準備中にも実行委員の皆様とたくさんの会話をし、私の想いを伝えられたのもよかったですし、今大会も親子の会話をより深め、「絆」を深めるための起爆剤になればと思います。

最後に、後志・余市大会開催にあたり、御協力いただきました関係機関・団体の皆様、長期間にわたり開催準備に奔走していただきました実行委員の皆様にご心より感謝申し上げますとともに、第58回大会開催予定の札幌大会の成功をご祈念申し上げます。

# 全道各地から余市町に1200余名が参加

## 第57回日本PTA北海道ブロック研究大会後志・余市大会が終わる

第57回日本PTA北海道ブロック研究大会後志・余市大会は、9月18日（土）と19日（日）の2日間、歴史とロマン、秋の味覚あふれる余市町で開催されました。全道各地から約1200余名の方々の参加があり、後志PTA連合会の皆様の心温まる歓迎と周到な準備の中で行われました。

第一日目は、黒川小学校・東中学校など7会場で5つの分科会と2つの特別分科会が開催され、第二日目は、余市町中央公民館で全体会、記念講演、閉会行事が行われました。

一日目の各分科会では、それぞれのテーマに基づき、各地区の特色あるPTA活動の発表や基調講演、後志管内の小中学生による意見発表などが行われました。

二日目の全体会では、開会に先立ちアトラクションがあり、大川ジュニアコーラスの子どもたちによる素晴らしい合唱の発表がありました。その後、主催者の挨拶と来賓の皆様からの祝辞をいただきました。



講演会では、鎌倉女子大学教授の木下博勝氏による「家族～夫婦円満、子ども、健康～」と題しての講演があり、ジャガー横田さんとの出会いから結婚、出産までのことや夫婦円満の秘訣、お子さんの成長の様子などをユーモアと笑いを入れながらお話をいただきました。

閉会行事では、関井大会実行委員長から渡部道P連会長を経て、次期開催地である川端札P協副会長へ大会旗の引継ぎが行われました。続いて、次期開催地を代表して川端札P協副会長より札幌大会への参加呼びかけがあり、幕を閉じました。

## 後志・余市大会分科会研究協議の報告

### 第一分科会 【組織運営】………みんなが参加するPTA組織と運営

200名近くの参加者の一番多い分科会で、「みんなが参加するPTA組織と運営」をテーマに、札幌市立宮の森中学校PTAから「学びの場や参画できる場の創造」を柱に、保護者の視点から学校と協力して進めたガイドブック作成などの様々な取り組み、札幌市立桑園小学校PTAから「一家庭一役」に基づく「活動の輪を広げる」組織づくりについての提言がなされました。

みんなが参加するための様々な工夫が活発に交流され、学校・保護者・P役員等の連携やつながりが重要であることの再認識とたくさんの元気をいただいた分科会でした。





## 第二分科会 【家庭教育】……………家族の絆を深め、心を育てる家庭教育

第2分科会ではおよそ130名が参加し、『家族の絆を深め、心を育てる家庭教育』をテーマに研究討議が行われました。最初に、岩見沢市PTA連合会の提言で、今日的課題である携帯電話に関わる状況について所持に関する統計やトラブルなどについて発表され、後半は市内緑中学校PTAの「携帯電話の所持を原則禁止」の取り組みについて報告されました。

2校目の函館市立神山小学校PTAの提言では、各家庭へのアンケート調査の実施により、家庭での教育や生活環境の状況把握と保護者の意識向上になったことが報告されました。その後、グループでの討議になり活発な意見が発表されました。



## 第三分科会 【学校支援】……………保護者・地域が協働する学校支援



学校の経営方針やPTAアンケートの結果を事業に盛り込んで活動している事例や、これまでの活動をまず白紙に戻し、やりたいことをやろうと、一から事業を考えた取り組みが報告されました。学校側に支援できることを聞いて、ボランティアを募る子ども支援部や、自主サークルという大人のクラブ活動等が新設されたとのことでした。

何度も学校に行くことによって学校を理解し、それによって信頼関係が生まれ、自分たちに何ができるのかを考え活動する。さらに、できることをできる人やしたい人がすることで、負担なく楽しく活動ができていたようでした。

## 第四分科会 【地域連携】……………子どもの健全育成と地域連携

「子どもの健全育成と地域連携」と題して、渡辺知樹札幌学院大学教授の基調講演があり、その後、札幌市内の2校から提言がありました。具体的な取り組みとして、子どもたちの安全を守るキッズガード隊や交通安全見守り隊、生徒が地域に役立つ活動、地域社会とのつながりを深める除雪ボランティアの活動が紹介されました。

その後のパネルディスカッションでは、活動の継続性や発信することの重要性、活動の輪を広げること等が熱心に討論されました。

学校・保護者・地域のつながり、連携を深める協力の大切さを再認識しました。



## 第五分科会 【食育】……保護者・学校がともに進める食育



第5分科会では、「保護者・学校がともに進める食育」というテーマで、全道各地から約100名のPTA会員の参加をいただいた中で開催されました。

旭川市立東明中学校PTAの「自分で作る弁当の日」、帯広市PTA連合会の「帯広市の食育の現状」が実践事例として紹介されました。取り組みが容易で、大人も関わり、生徒も成果を確認できる、また、地域の特色を生かし、行政機関も含め広範囲の連携の中での取り組みと、それぞれの特徴ある内容に興味深く聞き入っているようでした。今後、各地でも参考にして、創意工夫に満ちたいっそうの取り組みを期待しています。

## 特別第一分科会 【地域交流】……子どもの未来をみんなの手で

「子どもの自立と親とのかかわり」「家族の絆」を協議の柱として、後志管内小中学校の児童生徒6名から提言していただきました。司会者の簡単な解説の後に、参加者から感想や意見を聴衆する方法で行いました。

少年の主張の上位者だけに、どの提言も素晴らしい内容でした。納得するばかりで、称賛の感想が多かったように思います。

共通して感じたことは、全ての提言が「気づく」ことから始まっていることです。「気づいてくれたことに、気づく」、この作用の連続が「かかわりや絆」を深めていくに違いないと感じました。関係者の皆様に感謝いたします。



## 特別第二分科会 【地域交流】……PTA・地域の連携



特2分科会は協議の柱を「地域の特性を生かしたPTA活動のあり方」として研究・討議を行いました。

提言では、倶知安町立西小学校樺山分校の地域とPTAが協力して体験プログラムを行う「樺山クラブ」の活動について説明がなされ、地域とPTA、そして子どもたちが一体となった活動のすばらしさに、参加者は関心を寄せていました。

その後、「各PTAの特色ある活動」と「PTA活動を活性化させるためのコツ」についてグループに分かれ、実践事例の紹介や活性化方策について協議を行い、最後に協議経過を発表し分科会は終了しました。



# 平成22年度北海道PTA連合会の活動状況

## ◆◆◆ 広報活動研修会 ◆◆◆

広報活動研修会は、今年度も5ブロックそれぞれで開催されました。各会場では北海道新聞社から派遣された講師の方から、取材の仕方や記事の書き方を中心に、PTA広報紙作りのポイント等を学びました。また、各PTAの広報紙を持ち寄っての交流や広報紙作りの悩みなどについても活発な意見交流が行われました。



ブロック	開催地区	研 修 会 場	期 日	参加数
1	石 狩	石狩教育研修センター	6月18日	96名
2	上 川	旭川市トーヨーホテル	5月15日	72名
3	渡 島	函館市民会館	6月29日	115名
4	日 高	新ひだか町コミュニティセンター	6月 5日	20名
5	根 室	中標津町立中標津東小学校	6月27日	35名

## ◆◆◆ 教育振興助成事業 ◆◆◆

地区・市町村PTA連合会や単位PTAが主催し、実施している「創意あるPTA活動」に対して助成を行う制度です。今年度は3つの地区・市町村PTA連合会と8つの単位PTAから応募があり、申請書に基づき役員会で審査した結果、次の地区・市町村PTA連合会と単位PTAに助成することに決定しました。

### 【地区・市町村PTA連合会】

- ☆ 釧路市PTA連合会（早寝・早起き・朝ごはんアンケート及び啓発ポスター）
- ☆ 興部町PTA連合会（興部町PTA連合会研究大会協賛特別企画  
クラウンKこと大棟耕介氏のクラウンパフォーマンス）

### 【単位PTA】

- ☆ 江別市立大麻小学校PTA（大麻・文京地区子ども見守り協議会）
- ☆ 倶知安町立西小学校樺山分校PTA（大友剛さんコンサート）
- ☆ 小平町立鬼鹿小学校PTA（鬼鹿小学校ロケット教室）

## ◆◆◆ 北海道中学生討論会 ◆◆◆

20年度開催されました「全道生徒会サミット」の名称を、21年度は「北海道中学生討論会」として札幌市で開催しましたが、今年は11月13日（土）に旭川市を会場にして開催しました。

道内から6校、札幌市から2校の中学生16名が参加し、教員、保護者、行政、PTA関係者など大人も約30名ほど参加して行われました。

前半は、参加校の交流や問題提起の講演（岩見沢市長音寺住職近藤精隆氏）があり、後半は、今年のテーマの「語り合おう！家族の絆」について、活発な意見交換が行われました。

この「北海道中学生討論会」は、将来的にはブロックや地区、市町村P連や単Pで開催することも考えられますが、当面、北海道ブロック研究大会札幌大会から分科会の一つとして開催していく方向で検討しています。



## 常置委員会の活動

### 《組織・連携委員会》



今年の研究テーマは、「共に学び・行動し・連携するPTA活動と活性化させるための組織のあり方」～「報告を受ける委員会」から「発信する委員会へ」～です。

今年度の重点は、「社会のニーズや会員の願いにしなやかに対応できるPTA組織のあり方」で、①社会のニーズや会員の願いに対応できる組織はどうあるべきか、②活動を見直し、再構築するPTAの運営はどうすべきか、③魅力ある会員研修をどのように創造するか、について取り組みを進めています。

研究推進のために、全道の地区P連・単位PTAを対象にアンケート調査を実施し、組織の課題を明らかにしています。

### 《教育・環境委員会》

今年の研究テーマは、「「大人ががんばる」「PTAががんばる」そして、「子どもが変わった」～大人の果たす役割と具体的な行動を通して～です。

今年度の重点は、「子どもの生活リズム向上を目指す活動のあり方」で、①「早寝・早起き・朝ごはん」運動の意義と展開、②家庭でできる基本的な生活習慣の改善について取り組みを進めています。

研究推進のために、全道の地区P連・単位PTAから、特色ある実践例を募集し、事例分類や具体的な実践例をまとめています。



### 《母親委員会》



今年の研究テーマは、「豊かな心をもった子どもを育てる母親のあり方」で、全道統一スローガンは、「今 ころ輝いて 親として人として」です。

今年度の研究内容は、(1)「母親委員会の活性化と組織の充実のあり方」、(2)「生きる力を育てる家庭教育のあり方」です。

今年度は特に(1)に重点をおき、地区研究大会と母親委員会との関係性や意義を改めて見つめ直したり、働く親が増加していますので、研修内容や講師選択の工夫などを考えています。また、母親自らの手で研修会を企画運営し、活動を組み立ていく力量を身につけていくための取り組みを進めています。

各地区での取り組みを実践交流し、研究協議を深めています。

## 広報委員会の活動

PTA活動の活性化のために、必要な情報を収集・提供し、道P連の活動を身近なものとする広報活動が益々重要視されてきています。また、PTA会員共通の課題を共有し、タイムリーに発信していくことは道P連の重要な役割であり、そのことによって組織強化が図れるものと思われます。

一方で、一昨年立ち上げたPTAT(実践事例検索システム)の登録及び活用、会員が参加し、タイムリーな情報発信を目指したホームページの充実、効果的な会報の発行等の課題も山積しています。

これらの課題を解決し、PTA活動の活性化を図るため、今年度より広報委員会を設立することにしました。

今年度は、主に道P連の新しいホームページの内容やPTATの登録促進等について検討を進めています。





## ● 各種の表彰 おめでとうございます ●

### 第32回全国小・中学校PTA広報紙コンクール入賞

#### <日本教育新聞社社長賞>

- 函館市立中の沢小学校PTA 「まきば」

#### <佳作>

- 帯広市立啓北小学校PTA 「こんにちは」

#### <奨励賞>

- 小樽市立稲穂小学校PTA 「みのり」  
 ○ 帯広市立帯広小学校PTA 「帯校だより」  
 ○ 北見市立北小学校PTA 「陽だまり」  
 ○ 北見市立美山小学校PTA 「みやま」  
 ○ 旭川市立旭川中学校PTA 「楡」  
 ○ 帯広市立帯広第一中学校PTA 「Plain」  
 ○ 北見市立南中学校PTA 「Step by Step」  
 ○ 北見市立高栄中学校PTA 「しらかば」



### 平成22年度文部科学大臣表彰

#### <団体の部>

- 函館市立弥生小学校父母と先生の会 ○ 士別市立南中学校PTA

### 平成22年度日本PTA全国協議会会長表彰

#### <団体の部>

- 函館市立昭和小学校父母と先生の会

#### <個人の部>

- 白渕ひとみ (石狩管内PTA連合会) ○ 出口 昭仁 (稚内市PTA連合会)  
 ○ 早田 雅美 (函館市PTA連合会) ○ 友廣 久之 (胆振東部PTA連合会)

### 平成22年度北海道PTA連合会会長表彰

#### <団体の部>

- 函館市立昭和小学校父母と先生の会

#### <個人の部>

- 白渕ひとみ (石狩管内PTA連合会) ○ 出口 昭仁 (稚内市PTA連合会)  
 ○ 早田 雅美 (函館市PTA連合会) ○ 友廣 久之 (胆振東部PTA連合会)

## 北海道PTA安全互助会への加入のお願い

(全道の小中学校1560校の内、約400校が未加入となっています)

- 北海道PTA安全互助会とは、どんな制度ですか。
  - ・子どもたちの学校管理下外の事故やPTA会員のPTA活動中の事故などに対する見舞金制度です。
- 全道の小・中学校の加入は現在どんな状況ですか。
  - ・平成21年度は、小学校が81.2%、中学校が61.1%の加入率になっています。
- 全道では一年間でどのくらいの事故が発生しているのですか(平成21年度)。
  - ・学童の部⇒1047件(見舞金総額14,231,200円)
  - ・PTAの部⇒200件(見舞金総額14,520,000円)
  - \*PTAの部では、200件のうち57件が10万円を超える事故でした。
- 北海道PTA安全互助会は、どんな特徴がありますか。
  - ・会費が安いことです。(児童生徒一人当たり年間400円。一家庭年間200円)
  - ・他の保険等に加入していても、関係なく見舞金が支払われます。
  - ・固定具(自分で取り外しができないギブス)を使用した期間は、通院していなくても通院日として見舞金支払の対象となります。
  - ・PTA主催・共催行事に参加しているPTA会員(児童・生徒を含む)に加え、同参加中の「PTA会員の同居の親族」「PTA会員の代理者」まで対象となります。

未加入のPTAには、11月下旬ごろに「加入のお願い」の文書を送付させていただきましたが、PTA安全互助会の趣旨をご理解いただき、役員会やPTA総会などを通して検討し、加入していただくように重ねてお願いいたします。

病気の入院、手術に備えた  
「医療プラン」も  
ございます。

北海道PTA安全互助会の「傷害見舞金制度」に加え、更なる補償を提供!!  
元気だからの「心配」を「安心」に変える制度です。

元気すぎるから心配。そんな親心をささえます。

### 小・中学生総合補償制度

(普通傷害保険+医療保険)



お子さまの24時間<sup>24</sup>を補償します

#### 賠償責任補償

例) 自転車で歩行者にケガをさせた...

#### 傷害補償

急激かつ偶然な外来の事故によるケガに対する死亡、入・通院補償のほか、日射病・熱射病も補償されます。

#### 天災・0-157も補償

地震などの天災でケガをした場合や、0-157などの特定感染症に感染してしまった場合も補償されます。

<お問い合わせは> 引受保険会社 共栄火災海上保険株式会社 北海道支店 札幌第一支社

2010年6月9日作成 承認No.B1027254H0003 札幌市中央区北3条西2丁目 TEL011-221-9375